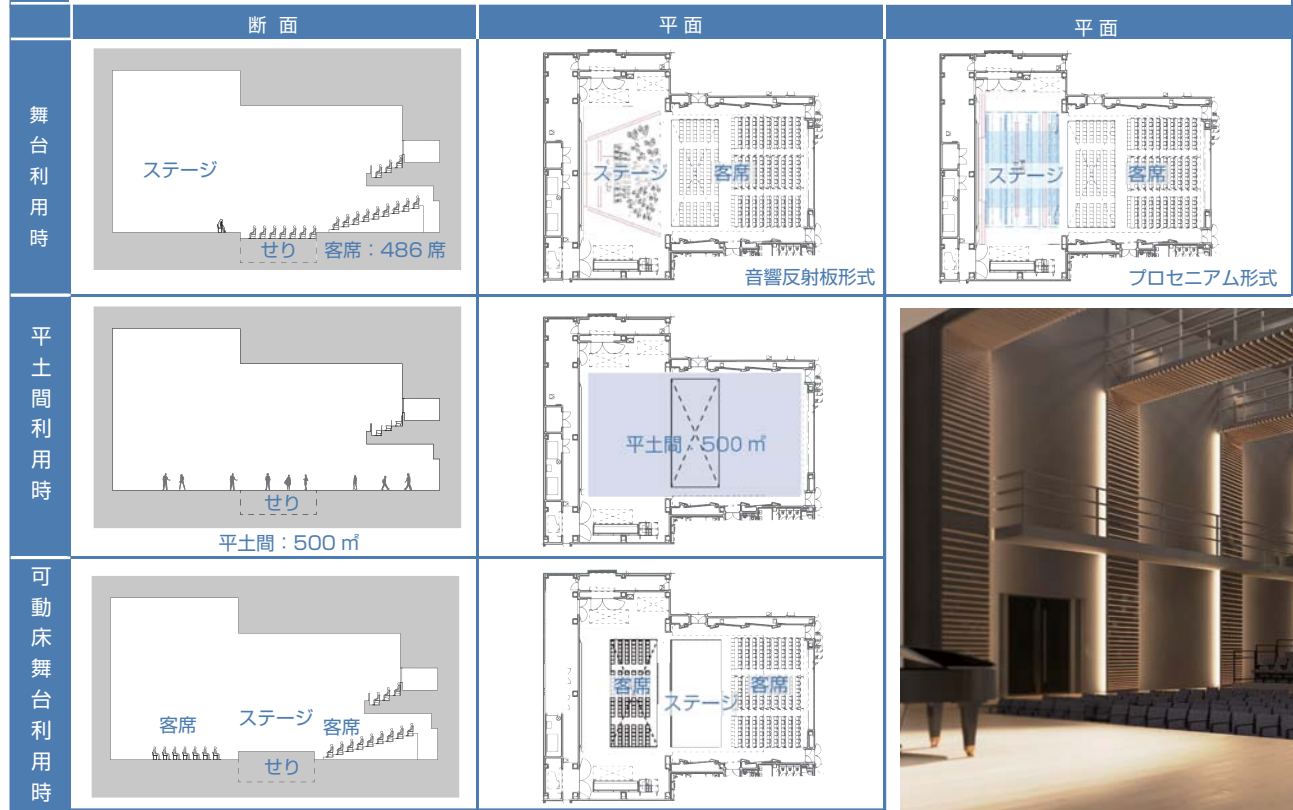


ふれあいを育てるしくみ

**大ホール**

- ・新たなホール形状の提案。基本計画時での 500 席、500 m<sup>2</sup>の平土間は、客席部分が間延びしてしまいバランスが悪いため見直しを行い、舞台部分を含めて平土間を確保することで、鑑賞者、演技者双方にとってバランスのとれたホール空間を創出することができました。
- ・これは、客席を一部昇降床としたもので、昇降床を下げた場合、1 階 408 席、2 階 78 席、合計 486 席となるほか、昇降床を上げてステージとすることもでき、この場合、1 階席 216 席とし小規模の公演を行なうことや、昇降床のステージを挟んで両側を観客席とするなど、多様な構成が可能となります。
- ・500 m<sup>2</sup>の平土間として活用する場合は、ロールバックチェアと呼ばれる収納式のイスを収納した上で、三分割にし、エアキャスターと呼ばれる空気圧を使った移動方法で、ステージ脇などに移動し、空間を確保します。



**学習スペース**

- ・大屋根下の天井が高い空間を有効利用して、ふれあい広場から視認性の高い位置の2階に学習スペースを設け、小中高生他の集まる場をつくります。

**屋根**

- ・屋根材は、費用対効果、将来のメンテナンスを含め比較検討を行い、シート防水対応を採用します。
- ・雪対策については、屋根に貯める対応とし、雪の落下対策として、屋根先端部にヒーターの設置を行います。



**ふれあい広場上部**

- ・大階段を設け、人の活動が外からも感じられる場としました。また階段を座席とし、ちょっとした休憩の場として使えるように工夫しました。
- ・ふれあい広場の上部を吹き抜けとし、1階と2階の一体感を作り出します。またトプライト及びハイサイドライトを設けることで、外から光を取り入れ、明るくて暖かい空間を作り出します。

**エレベーター**

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、建物の中央部にエレベーターを設置します。
- ・メンテナンス費用も考慮し、交流センター2階用とたきざわテラス用を兼用する計画とします。

**たきざわテラス**

- ・岩手山や四季の表情豊かな景色が楽しめるたきざわテラスを配置します。
- ・たきざわ広場でイベントが行われた際、たきざわテラスから観覧できるようにします。

